



## 取扱説明書 [ハウジング本体編] V1.4

このたびは、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
ご使用前に本書 [ハウジング本体編] 並びに別冊子 [カメラ編] をよくお読みいただき十分ご理解のうえ、Nexus ハウジングを安全に正しくお使いください。  
お読みになったあとも、大切に保管してください。  
カメラをハウジングにセットしたら、水中で使用される前に必ず、全ての操作部が確実に操作できることを確認してください。

取扱説明書で使用している画像やイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

**a n t h i s**

# 目 次

## 基本的な使い方

レンズの準備	本体 1
カメラの準備	本体 2
ポートの準備と取り付け・取り外し	本体 3
ハウジングの準備	本体 4～9

## 補足説明

NSS-C について	本体 10～11
カバーギアホルダーの使い方	本体 11
ストラップリングについて	本体 12
表示シールについて	本体 12

## 安全にお使いいただくために

ご使用前の確認とリークテスト	本体 13
メイン電子ダイヤルノブの滑りや空回りについて	本体 13
取り扱い上の注意	本体 14～16
O リングの取り扱い	本体 17～18
ボディ O リングの交換と点検方法	本体 19～21

## ご使用後のメンテナンスについて

ご使用後の取り扱いと保管	本体 22
修理・点検を依頼される場合について	本体 22

本製品は、Canon デジタル一眼レフカメラを収容できる防水耐圧ハウジングで、水深 75m までの圧力に耐えられます。

## レンズによる選択

### <単焦点レンズ>

オートフォーカス (AF) レンズを

- オートフォーカスで使用される場合はフォーカスギアは必要ありません。
- マニュアルフォーカス (MF) で使用される場合はレンズにフォーカスギアを取り付けます。

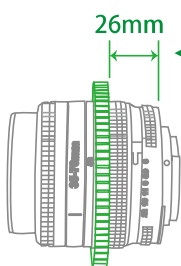
### <AF ズームレンズ>

レンズにはズームギアを取り付けます。

ズーム操作はズームギアによりできますが、フォーカスはオートフォーカスでご使用ください。

## 1 ギアの取り付け

1-1 レンズにフォーカスギアまたはズームギアを取り付けます。



■Canon レンズ  
レンズマウント面からギア後ろ面までは約 26 ミリです。

1-2 ギアの取り付けについては、各々の取扱説明書をご覧ください。

1-3 レンズをカメラに取り付けます。

## 2 サブ電子ダイヤルキャップの取り付け

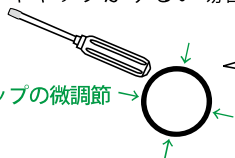
2-1 サブ電子ダイヤルにキャップを取り付けます。☞図-1 (6D 除く) 取り付け後、ダイヤルがスムーズに回ることを確認してください。

キャップの切り込みにサブ電子ダイヤルプレートがはまり、回ります。

キャップがゆるい場合は微調節が必要です。



キャップの微調節 →



キャップの耳をほんの少し、ドライバーの柄などでやさしくたたいて変形させる。



### 3 モードキャップの取り付け

※モード操作のみ必要。電源スイッチを選択の場合は不要です。

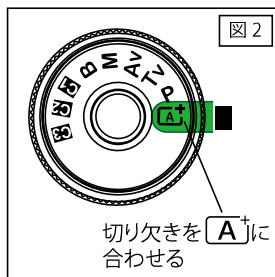
カメラのモードダイヤルにかぶせます。

3-1 モードダイヤルを [A] にセットします。

3-2 キャップの切り欠きを [A] に合わせ押し込みます。☞図 2

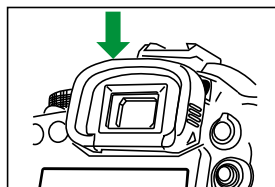
3-3 ダイヤルを回して、スムーズに回ることを確認してください。

キャップがゆるい場合は微調節が必要です。本書 P1\_\_2-1 参照



### 4 アイカップの取り外し

アイカップとファインダーが干渉し、背面のボタン操作ができない、リアボディが浮き上がるなど不具合の原因となりますので、取り外してください。



### 5 カメラの準備

カメラをハウジングにセットする前に行ってください。

5-1 カメラの電源を ON に合わせます。

電源スイッチの機能を選択している場合は、必要ありません。この場合は、撮影モードを選択します。

5-2 メイン電子ダイヤルのワックス、皮脂、指紋等をカメラ専用のクリーニングクロスやペーパーで丁寧に拭き取ります。

ダイヤル上の油分が、ハウジング内部のホイールの Oリングに付着すると、滑りやすくなり、ノブが空回りして操作ができない場合があります。セッティング前に、操作ダイヤルの油分や Oリングの油分を拭き取ると、作動不良を避けることができます。

## 5 ポート基部点検

- 5-1 ベースOリング、Oリング溝、ネジ部の点検をします。☞図3  
 ゴミ、ホコリ、砂などの異物の付着とOリングの傷、割れ、ねじれを点検してください。Oリングについての異物は微量でも浸水の原因となります。  
 ▶本書 P17\_Oリングの取り扱い参照
- 5-2 ポートのネジ、ベースOリング、ベースOリング接触面にグリスを薄く塗ります。  
 ☞図-4



図3

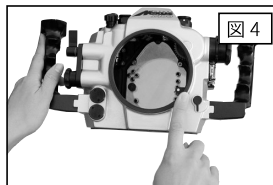


図4

## 6 ポート取り付け

- 6-1 ネジを合わせ、ポートの根元付近を持って時計回りに回します。  
 ポートのOリングが、接触面にあたりはじめると抵抗があります。  
 そこから、約35~45度回します。  
 これを締め付け角度の目安として確実に取り付けてください。☞図-5

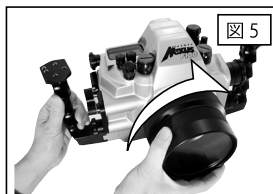


図5



注意

ノブ付きポートのノブを持って着脱はしないでください。根元から破損して重大な事故になります。

Oリングは、Oリング接触面と接触し、均等で途切れのないつぶし代により防水します。以下のような場合には、防水機能を失い重大な事故につながるおそれがあります。

- 締め付け角度が不足する。→Oリングの摩耗、変形など
- 締め付け角度がない→Oリングの脱落、外径の大きいフィッシュアイポートの場合は、ポートマウント横のTスライドベースとの干渉などがあります。原因を調べ、取り除いてください。

## 7 ポート取り外し

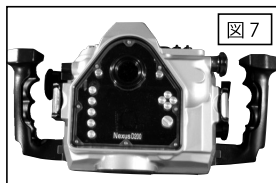
- 7-1 ハウジングをしっかりと支え、  
 ポートを反時計回りに回してください。

## 8 リアボディを開ける

- 8-1 モードノブを引き上げます。☞図-6  
ボディの開閉時には、カメラが入って  
なくても行ってください。  
ノブが下がっているとカメラと干渉しま  
す。



- 8-2 安定した所にポート先端を下にして置  
きます。☞図-7

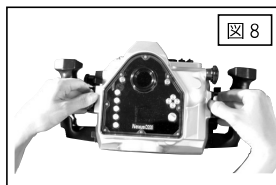


- 8-3 リアボディのラッチを左右同時に開き  
ます。☞図-8



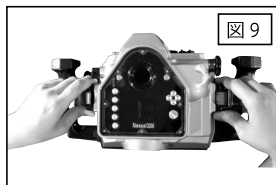
注意

ラッチを片側だけ開けた場合、もう一  
方のパッキングロックにより、リアボディが  
はね上がり、Oリング接触面を傷つける  
ことがあります。



ラッチのバネによりグリップとの間に指  
が挟まれることがあります。少し浮き上  
がった状態で、指の位置を変え挟まれな  
いように注意してください。

- 8-4 フックを外し、リアボディをそのまま持ち  
上げます。☞図-9  
リアボディはOリング接触面を上にして  
安定した所に置いてください。

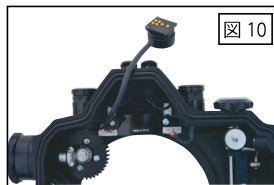


注意

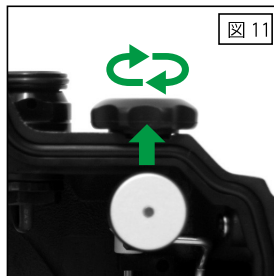
Oリング接触面を下にして置くとゴミ、ホコリ、砂などが付着します。  
また、防水に致命的な傷が付くこともあります。

## 9 カメラのセット

- 9-1 シャッターレバーを起こし、内側のアームをカメラを取りつけ時に邪魔にならない位置にします。☞図-10  
NSS-C コネクターをハウジングの外に出します。

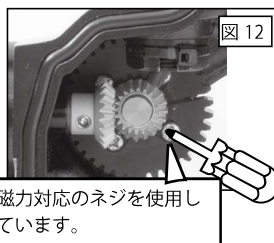


- 9-2 メイン電子ダイヤル ON/OFF ノブを下げた状態から、無理なく止まるところまで時計まわりに回してホイールを上げてください。1.5~2 回転 (約 1 mm) が目安です。引き上げ過ぎるとシャフトが固着してスムーズに回らなくなります。  
☞図-11



無理な力でホイールを上下させないでください。シャフトが曲り、ノブがスムーズに回らなくなります。

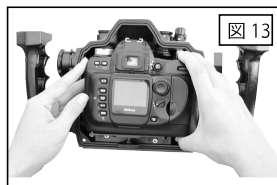
- 9-3 2モードギアのセット  
EF 100mm F2.8 マクロ USM /  
EF 100mm F2.8L マクロ IS USM  
レンズを使用する場合は、カバーギアを取り外します。☞図-12



### 2モードギアの取扱いについて

- Nexus C に採用されている 2モードギアは、36モードのベースギアに 40モードのカバーギアが装着されています。カバーギアは 2分割構造で、4箇所ネジで固定されており、必要に応じて着脱することができます。大口径レンズは、レンズの径に応じてフォーカスギアの径も大きいため、フォーカスノブのカメラ側にあるアイドルギアは、フォーカスギア（ズームギア）の歯数に合わせ、36モードに設定が必要です。
- 外したカバーギアは、紛失しないようにベースプレート裏面のホルダーに取り付け、保管してください。標準的なレンズを使用する際に必要です。
- カバーギアを取り付ける際は、切断面のすき間が均等になるように固定してください。

- 9-4 カメラを入れます。  
レンズ、ギア、に注意しながらゆっくり  
入れます。☞図-13

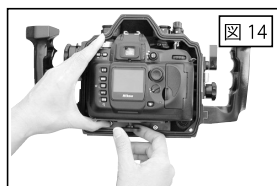


- 9-5 三脚ネジ穴にカメラホルドスクリューを  
合わせます。

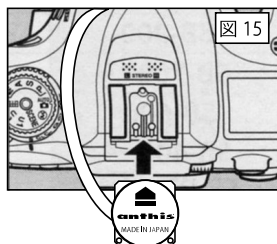


ネジがスムーズに合わない場合は、カメラが正しい位置にありません。  
2モードギアの設定はどうか。操作部のアームやメイン電子ダイ  
ヤル ON/OFF のホイールなどの干渉がないか確認してください。

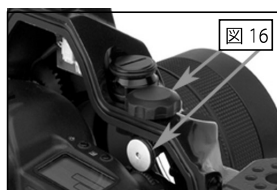
- 9-6 カメラを固定します。  
カメラホルドスクリューを時計回りに  
回します。☞図-14  
完全に締める前に、フォーカスノブを回  
し、ギアがはまり合ってスムーズに動く  
ことを確かめてください。



- 9-7 NSS-C コネクターをアクセリーシューに  
接続します。カメラに手を添えシューの  
奥まで確実に差込みます。☞図-15  
内蔵ストロボの発光による光接続の場合  
は、ポップアップの妨げになるので不要  
です。



- 9-8 メイン電子ダイヤル ON/OFF ノブを反時  
計回りに回し、ホイールを下げてメイン  
電子ダイヤルに合わせます。☞図-16  
ノブを下げる目安は、無理なく止まる所  
から約1回転半です。ホイールとダイヤ  
ルの位置が合って、適度に押している状  
態で作動します。



メイン電子ダイヤルを回し、ハウジングにセットする前と同程度の  
重さで、正しく操作できるかどうか確かめてください。



## 10 マルチファインダー インナーユニットのセット

- 10-1 インナーユニットのネジに、少量のグリスを塗ります。  
ホルダーのネジに合わせて、時計回りに止まるまで回します。☞図-17



### ▶インナーユニットの選択

- ユニットなし…ハウジングとマスクにより、アイポイントが遠くなり、ファインダー像にケラレが発生します。ファインダー像は拡大も縮小もしないノーマルの状態です。
- ピックアップユニット…ファインダー像を縮小して、全視野が確認しやすくなります。フレーミング重視にお勧めです。
- マグニファイアユニット…中心部を約 1.2 倍拡大して、マクロ撮影等でピント合わせをより確実にします。

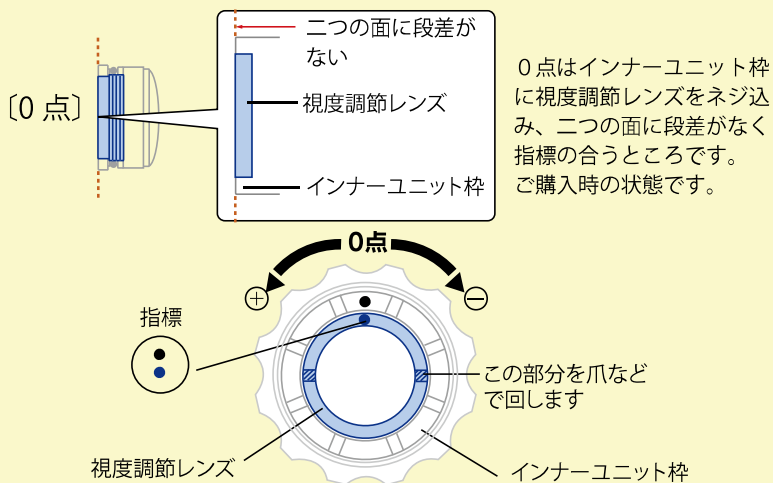
### ▶その他

- 直接レンズに触れないように注意してください。
- 保管は付属のケースに入れてください。

### 【インナーユニットの視度調節について】

インナーユニット枠内にネジ込んだ視度調節レンズを、時計または反時計回りに回して調節します。0 点より 2 回転（高低差 1mm）で 1 度の補正となります。補正の範囲は ±1 までです。撮影前にファインダーを見ながら最適な位置に調節してください。

+側に回し過ぎると視度調節レンズが脱落することがあります。



## 11 リアボディを閉める



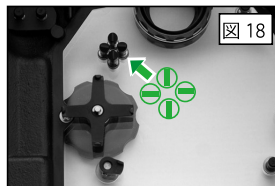
以下の操作部はリアボディを閉める前に位置を合わせておかないと、操作ができません。

- 11-1 マルチコントローラーの上下左右に、ボタン内部のゴムキャップを合わせます。

☞ 図-18

※ゴムキャップに面取りがない場合は不要です。

操作に伴いボタンは回転し、ゴムキャップの位置もずれます。リアボディを閉める前に位置を合わせてください。



- 11-2 ライブビュー撮影 / 動画撮影切替えバーの指標をカメラの設定に合わせます。

☞ 図-19・図-20

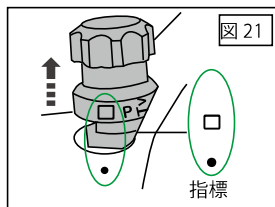
位置合わせをしないと、操作ができないだけでなく、ブロックの破損、カメラスイッチとの接触によるすき間の発生等、不具合の原因となります。



- 11-3 モードノブの□をハウジングの指標●に合わせます。☞ 図-21

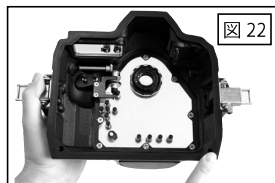
この時、ノブが引き上がっていることを確認してください。下がっているとプレートがカメラに取付けたモードキャップと接触して、正しい位置にセットできません。

電源スイッチの場合も、引き上げは必要です。

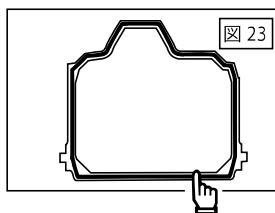


- 11-4 リアボディのOリング接触面に傷やホコリ、砂などの異物が付着していませんか点検します。☞ 図-22

▶ 本書 P17\_O リングの取扱い参照

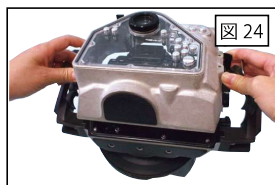


11-5 フロントボディのOリングにゴミ、ホコリ、砂など異物の付着や傷、割れ、ねじれないか点検します。



11-6 Oリングの盛り上がりにグリスを薄く均等に塗ります。☞図-23

11-7 リアボディのピン穴をフロントボディのノックピンに合わせて静かに置きます。  
☞図-24



### 《重要》

リアボディを置いたら、合わせ面を一周確認してください。すき間のある状態で閉めないでください。ボディOリングの接触が不十分となり、防水機能が損なわれ大変危険です。干渉を引き起こすアーム、プレート、ブロックなどの位置合わせを確実に行ってください。

❶ サブ電子ダイヤルプレートのツメがキャップの切り欠きと合っているか。

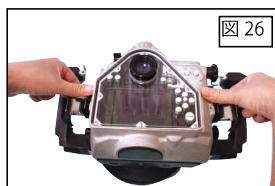
☞図-25

❷ ライブビュー撮影 / 動画撮影の切り替えがスムーズにできるか。

❸ NSS-C コネクターのコードを挟んでいないか。

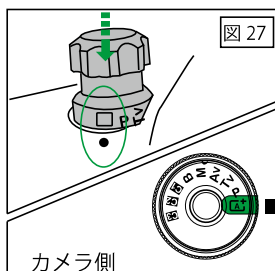


11-8 ラッチをフックにかけ、左右同時に引き上げます。☞図-26



11-9 モードノブを押し下げ、モードキャップの切り欠きにプレートのツメを合わせます。ノブを回し、モードの切替えが正しく行えることを確認してください。

☞図-27



11-10 マルチコントローラーボタン、ライブビュー撮影 / 動画撮影の切替え、サブ電子ダイヤルの操作が、正常に行えるか確認します。

## NSS-C について

### ◎機能

電気接続 2 灯と光接続 2 灯が同時に使用できます。

#### 【電気接続とは】

- カメラと外部ストロボをニコノス 5 ピン対応の電気ケーブル接続します。X 同調のみ可能で、ストロボの TTL 自動調光は使用できません。

#### 【光接続とは】

- カメラと外部ストロボを光ケーブルで接続します。X 同調のみ可能でストロボの TTL 自動調光は使用できません。

#### 【作動について】

本システムは光信号対応ストロボ、ニコノス型 5 ピン対応ストロボ全機種に対して正常な作動を保証するものではありません。ご使用の前には、ご自身で作動確認を行ってください。

### ◎取扱い上のご注意

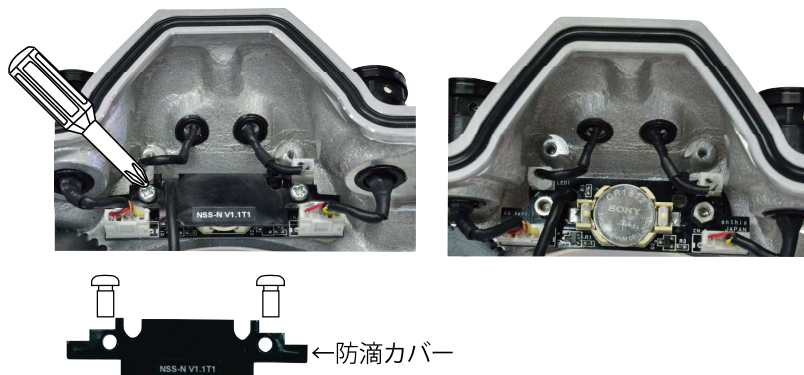
- NSS-C カメラコネクターやシンクロコードの着脱時は必ずカメラの電源を OFF にしてください。
- 基板に水滴がかからないように注意してください。ボディの壁を伝って付着する海水にも注意が必要です。故障の原因となります。
- 基板に水滴が見えた場合は、すぐにエアで吹き払ってください。作動に異常がなければ、塩分を取り除くため、同量の真水をかけ吹き払うことをおすすめします。その後、弊社での点検をおすすめします。
- 誤って基板に水滴がかかった場合は、ダメージの拡大を防ぐために電池を抜いてください。

#### 【故障かな？と思ったら】

- 電気接続
  - ソケット内への水滴落下によって起こる端子の腐蝕による接触不良  
→端子の汚れを綿棒等できれいに拭き取る。
- 光接続
  - 光ケーブルの断線、先端折れ曲がり、ひび割れ、曇り
  - 光ケーブルの断面がきれいに切断されているか。→よく切れるカッター等で真っすぐに切断する。ニッパー等での切断は不可。断面が滑らかではないため精度が落ちる。
  - 電池残量が十分か確認→電池電圧 2.9V 以上を推奨。
  - 光ケーブルが一番奥まで入っているか。
  - 光ケーブル差込み口の防水レンズの汚れ→ケーブルアダプタを外し濡らした綿棒等で拭き取る。
  - LED と光ケーブルの芯にずれがないか→光ソケット内部の LED が中心に収まっているか。ガタがある場合は修正が必要です。

## ●電池について

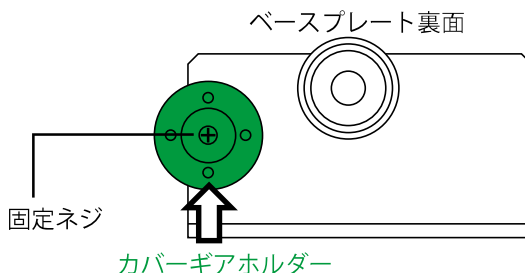
- 使用できる電池 3Vのコイン型リチウム電池 (CR-1632)
  - 電池寿命 使い方や条件によって異なりますが、およその目安は5000シャッターです。ご購入時に組込まれておりますのは、モニター用の電池です。記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。電池のスペアを携帯することをおすすめします。
  - 電池交換手順
1. 防滴カバーの十文字穴つきネジを2番 (No.2) のプラスドライバーで外します。



2. 電池の⊕⊖を間違えないように交換します。
3. 防滴カバーを戻し、ネジを締めます。

## カバーギアホルダーの使い方

- 必要な時にすぐに使えるように、外したカバーギアをホルダーに取りつけ保管します。
- 取りつけづらい場合は、一旦ホルダーをベースプレートから外して、作業後、元に戻す方法もあります。
- 本体内のスペースの都合上、カバーギアホルダー不対応のモデルもあります。



## ストラップリングについて


- 付属品のストラップリングは、必要に応じてグリップのストラップベースに取り付けてください。
- フル装備を想定したものではありません。重い物を装着すると切れやすいです。ご注意ください。



- 当モデルでストラップリングを使用する場合は以下の方法があります。
  1. グリップエクステンションの取り付け  
本体とグリップの間に継ぎ足し、操作部とグリップの間隔を広げます。  
品名：GE1 品番：20355 価格：¥1,700（税別）
  2. マルチファンクションの操作部を取り外し、ふたをする。  
アンティス サービスにご相談ください。

## 表示シールについて

汎用タイプで、シール面が内側用と外側用があります。各操作部やボタンの名称に合わせて貼ってください。

 使用例



## 作動確認

- ハウジングの各操作部が正常に操作できるか確認します。
- 本製品の作動確認は当社基本カメラに基づきます。万一作動に差し障りな点がございましたら、アンティス サービスへご相談ください。

## メイン電子ダイヤルノブの滑りや空回りについて

カメラのダイヤル上にグリスや皮脂の油分が付着している可能性があります。油分が付着していると滑りやすくなり、空回りの原因となります。カメラ用のクリーニングクロスやペーパーできれいに拭き取ってご使用ください。ダイヤルを回すホイールのOリングの油分もきれいに拭き取ってください。

## 撮影準備

- ストロボの発光テストをおすすめします。
- 各機能のリセットはいかがでしょうか。
- 電池の残量は十分ですか。

## リークテスト

耐圧防水性能の確認テストです。移動、運搬時に起こりやすい破損や、セット変更時のミスなど、さまざまなリスクから大切なカメラやレンズを守ります。

### ●リークテストはどのような場合に行うのか？

- 初めて使用する時
- 前回のご使用から長期間ご使用にならなかった時
- 航空機での運搬後
- 長距離での運搬後
- 高低差のある移動後
- ポートの着脱交換後
- Oリングの着脱交換後

### ●リークテストはどのようにして行うのか？

カメラ、レンズを外した状態でハウジングを撮影予定の水深まで持って行き、水漏れなどの異常がないか確かめます。

## ハウジング

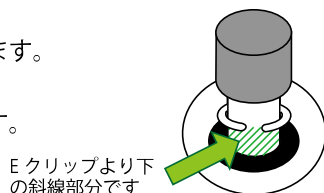
- 防水はOリング、フロントボディのOリング溝、リアボディのOリング接触面により機能し、それぞれが重要な働きをしています。  
▶本書 P17「Oリングの取り扱い」をよくお読みください。
- ボディ、ポートの各Oリングは不用意に外さないでください。  
ボディOリングを交換する時は確実にセットし、必ずリークテストを行ってください。  
▶本書 P13「リークテスト」をよくお読みください。
- リアボディは確実にフロントボディノックピンに合わせてください。  
ボディ前後のずれ、リアボディの浮き上がりがないかを確認してからラッチを開めてください。
- リアボディのOリング接触面やフロントボディのポートOリング接触面の傷には注意してください。傷の修復は困難な場合があります。
- 炎天下の車内および高温になる場所や直射日光のあたる所に放置しないでください。カメラやハウジングの故障原因になります。
- 大きな外力（落下、衝撃、強い振動など）を加えないでください。
- 海辺など、潮風のあたる場所での開閉はできるだけ避けてください。
- 水分が十分に乾いていない時にメモリーカード、バッテリー交換などで開ける場合は、ハウジングの周りを真水で洗い、水分を十分拭き取りポートを下にして開けてください。水分が残っていると、開口部とOリングのすき間にある水滴がカメラにかかることがあります。
- 雨天の屋外など湿気の多い所でハウジングを開閉したり、水中撮影時と温度差のある所では結露現象が起り、ポートレンズやファインダーレンズが曇ることがあります。

## ボタン

操作部のグリスは徐々に消失していきます。これに伴い動きも重くなります。そのような場合には、グリスを補充するとスムーズに動くようになります。

### ボタンのグリスアップ

- 1) ボタンを押して軸の周りにグリスを塗ります。  
※つまようじ等を利用すると便利です。
- 2) ボタンを数回押してグリスをなじませます。





## 電気ソケット

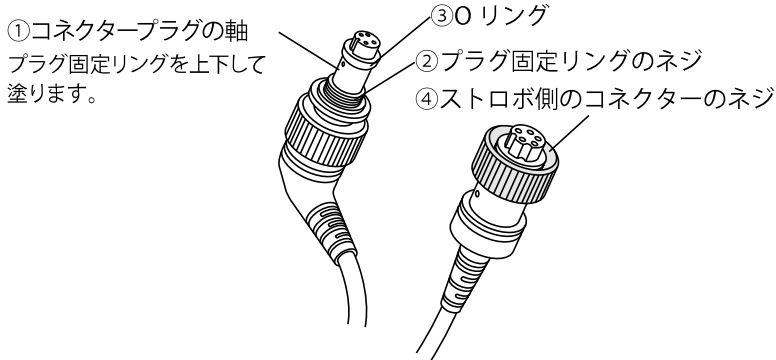
- 海からあがった直後など良く乾かない状態でストロボのシンクロコードを外すと水滴がシンクロソケット内に落ちることがあります。落下した水滴は短時間でシンクロ端子を腐食させ接触不良を起こします。万一水滴が落ちた場合は速やかに拭き取ってください。
  - シンクロコードを外す際は、よく乾燥させてから行るか、接触部分の水分をタオルなどでよく拭いた後にハウジングを横向きか逆さにして行ってください。水滴の落下を防ぎます。
  - ソケット内への水、ゴミの侵入を防ぐために、シンクロコードを接続する時以外はシンクロキャップで保護してください。
  - 使用しないソケットは、シンクロキャップのネジにグリスをしっかりと塗ってください。キャップがはずれなくなることがあります。
- ※以下の箇所をクリーニング及びグリスアップすると、とシンクロコードが固着しにくくなります。

**注意** ⚠️ ゴム系以外のOリングが組まれているシンクロコードは、接続する前に他のグリスが接触しないようにソケット内部のグリスをきれいに拭き取り、グリスアップの際も専用のグリスを使用してください。

### ●クリーニングが必要な箇所



### ●グリスアップが必要な箇所



## ポート

- ハウジングに取り付ける前にOリングだけでなく、ネジにもグリスを塗ってください。
- 露出したネジやOリングはとても傷つきやすいのでポートキャップリア（別売品）で保護してください。
- プラスチック製のポートは、高温下で保管したり長時間日光にさらされたような場合、若干ではあります但し膨張する傾向にありますので、お気を付けください。

## 水中撮影

- 初めて使う時や長時間ご使用にならなかった時には、リークテストを行ってください。
- 潜行を始める前に浅い所で各操作部が正常に作動するか確認してください。

## 運搬

- 運搬の際には、機材同士がぶつかり合ったり、振動や衝撃を加えないでください。
- ハウジングは耐圧容器です。内部圧力の上昇には耐えられません。航空機などでの運搬時には、ポートは外してください。ボディキャップ（別売品）のご使用をおすすめします。
- 落としたり、ぶつけたりして強い衝撃が加わった場合には、外観に異常が見られない時でも弊社サービス部で点検を受けられることをおすすめします。
- カメラはハウジングから外して、運搬されることをおすすめします。

## もし水漏れが起きたら

- 内部に水滴が見えたり、異常に気が付いた場合は撮影を中止し、カメラを水平に保ち、できるだけ早く水から上げてください。
- 浮上時には浮上スピードに気を付け、減圧時間を守ってください。カメラ、ハウジングを速やかにお買い上げの販売店へお持ちください。

## 大切なカメラを水没させないために

カメラは繊細な電子部品を多く使用しています。わずかな浸水でも大きなダメージを受けることがあります。○リングの取り扱いには十分ご注意ください。

## ○リングの働き

○リングにより密閉と防水性を確保しています。  
○リング接触面と接触し、均等でとぎれのないつぶし代により防水し、水圧による○リングのつぶし代の増大とともに、さらに防水性が大きくなります。○リングや○リング接触面にゴミや傷があるとその部分から浸水します。ご使用前には点検を行ってください。○リンググリスもお忘れなく。

## 大変危険です

下記の場合には防水機能を失い、水が浸入します。

- ○リングにゴミ、ほこり、砂、毛髪、繊維、糸くずなどの異物をはさんでいる場合 → → → → → → → → → → 取り除いてください。
- ○リングに傷、割れがある場合 → → → → → 交換してください。
- ○リングにねじれがある場合 → → → → → 直してください。
- ○リング接触面に傷がある場合 → → → → → 点検、修理に出してください。

## ○リンググリスは切らさないでください

- 正常に働くには○リンググリスが必要です。
- グリス分が無いと水漏れを起こすこともあります。
- ○リングをセットした状態でグリスを指先に少量取り、盛り上がっている部分に薄く塗ります。
- グリスは滑りをよくするためのものですから、多量に塗る必要はありません。
- グリスのつけ過ぎは、ゴミ、ほこりなどが付着しやすくなります。そしてそれが分かりにくくなりかえって危険です。

## ○リングの保管について

なるべくのびした状態で、ほこりなどがつかないように袋に入れてください。直射日光は避け、またナフタリンなど防虫剤の近くに置かないでください。

## Oリングの交換時期

- ボディ、ポートのOリングは、傷がなくても変形や摩耗により防水性能はおちてきます。  
長くても1～2年を目安に交換してください。(約100ダイブ)
- 可動部のOリングの耐久性は、取り扱い及び使用頻度により異なりますが、年ごとの可動部Oリング交換、3年ごと(約200ダイブ)の全Oリング交換をおすすめします。
- ご自身でOリング交換をされた場合は、必ずリークテストを行ってください。▶本書P13リークテスト参照
- 弊社サービス部でも承っています。  
メニューの一例です。詳しくはアンティス ホームページ  
<http://www.anthis.co.jp> から「サービス情報」をご覧ください。

	交換時期目安	内容	預り日数預
オーバーホールA	100ダイブ もしくは 1～2年使用	可動部分解点検、調整、 Oリング交換、シンクロ点検、 ボタングリスアップ、内部清 掃、耐圧検査	約2～3 週間
オーバーホールB	200ダイブ もしくは 3年使用	全分解精密検査、全Oリン グ交換、シンクロ点検、ボタ ングリスアップ、 内部清掃、耐圧検査	約2～3 週間

## ボディリングとは

- ハウジングの防水はリングが重要な役目を果たし、そのセット状態が防水性能を大きく左右します。
- 不完全なセットは浸水、水没の原因となります。通常のお手入れとして不用意にはずさないでください。

## ボディリングの交換

- ボディリングの交換及び着脱をご自分でされる場合は、以下の交換、点検方法に従って確実に行ってください。
- 交換に不安を感じられた場合は弊社、プロショップ、販売店にご依頼ください。

## 外す前に

本書 P20 の「ボディリングの点検方法」をお読みになり、現在のリングの状態を点検します。

## 交換手順

1. リングとリング溝とのすき間にプラスチックカード（または丸いヘラ）を入れ、リングを引き出します。
2. リング溝にゴミやほこりが付着していないか点検します。付着している場合は、綿棒等で取り除きます。
3. 交換用リングに傷やほこりが付着していないか確認します。ほこりがある場合は取り除きます。傷がある場合は使用しないでください。
4. 指先でリングの表面にグリスを薄く塗ります。
5. リングを取り付けます。  
リングのあたりが均等になるように入れるにはコツがあります。  
▶本書 P21「ボディリングの取り付け方」を参照してください。
6. リングの取り付けが正しいか、セット状態を点検します。  
▶本書 P20「ボディリングの点検方法」を参照してください。



リング溝を傷付けないでください。



ゴミ、ほこりは防水機能を損ないます。



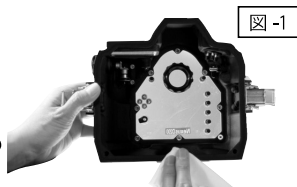
グリスは塗り過ぎやムラがないようにしてください。

## ボディ O リングの点検方法

### ❖ 用意するもの

O リンググリス、弱い揮発性溶剤、ガーゼ等拭き取るもの  
※揮発性溶剤の例：ベンゼン、アクリル塗料溶剤など

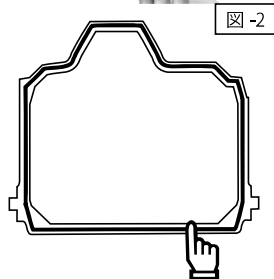
1. リアボディ O リング接触面に付いているグリスを揮発性溶剤を含ませたガーゼ等できれいに拭き取り、乾かします。☞ 図-1



**注意** 揮発性溶剤は、グリスの油分を取り除くために使います。強いものはボディを痛めますので、使用しないでください。

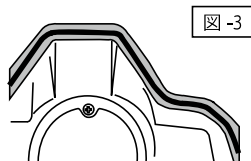
2. ボディ O リングにグリスを薄く均等に塗ります。☞ 図-2

**注意** グリスの塗り過ぎやムラがないようにしてください。  
O リングのあたり具合が正確に確認できません。



3. ラッチを一度閉めてから開けます。

4. O リングのセット状態が O リング接触面に転写されます。その状態を点検します。☞ 図-3  
a) 途切れていないか。  
b) 広い、狭いなど幅に不揃いはないか。



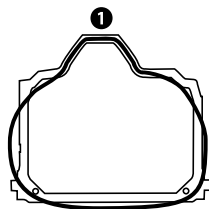
5. 幅の不揃いや途切れがある場合は、大変危険です。水面直下での浸水や、重大な事故を起こす可能性があります。均等になるまで繰り返しセットし直してください。

以上は大変重要です。確実に行ってください。  
ご不明な点はお問い合わせください。

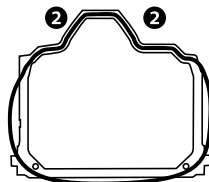
## ボディOリングの取り付け方

Oリング溝にゴミやほこり、Oリングに傷などがないことを確認してから行ってください。

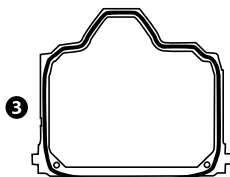
1. 上部に入れます。☞図-1



2. 両肩に入れます。☞図-2  
左右どちらからでもかまいません。

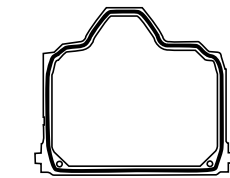


3. 側面の溝に少し伸ばしぎみにいれます。  
☞図-3



4. 下辺に入れます。☞図-4

5. Oリングのねじれを点検後、指先で全体の凹凸をならします。



6. Oリングの取り付けが正しいか、セット状態の点検をします。



本書 P18 のボディOリングの点検方法を参照してください。

### 取り付けのポイント

下記の内容をふまえた上で取り付けをしてください。

- 伸ばして入れれば細く（低く）なります。逆に詰めて入れれば太く（高く）なります。
- ハウジングの両側面（縦）はラッチに近いので、あたりが平均して強く（広く）なるため、少し伸ばしぎみに入れてください。
- 下辺はそのままの長さで押し込んでください。  
上部や角部はOリングがねじれたり、あたりが不均等になりやすいので特に注意してください。

## ●ご使用後の取り扱い

---

ご使用後は必ず行ってください。

- 外部に付着しているゴミ、砂、塩分などを取り除くために、真水に十分浸してから、流水ですき間に残った砂、塩分を洗い落としてください。海中で使用したまま放置しておく、各操作部に塩分などが固着し、作動不良や腐食を起こします。
- 直射日光があたらない、風通しのよい場所で乾かしてください。
- Oリングの点検およびグリスアップをしてください。

## ●保管に関するご注意

---

完全に乾いた状態で行ってください。

- カメラ、レンズ、ポートは取り外してください。  
ポートのネジ部は、ポートキャップリア（別売品）などで保護してください。
- ハウジング内に乾燥剤を入れ、Oリング接触面はボディキャップ（別売品）で保護してください。
- ボディOリングは不用意に外さないでください。
- 直射日光のあたらない、風通しのよい乾燥した場所を選んでください。湿気の多い場所やナフタリンや樟腦の入った所に保管しないでください。

## ●修理／点検を依頼される場合について

---

- スムーズで確実な対応をさせていただくため、anthis ホームページのサービス情報から「修理・サービス依頼書」をダウンロードして、必要事項をご記入のうえ、依頼品に添付してください。
- 故障や浸水などの場合は、できるだけ詳しい状況をお知らせください。
- 依頼品のみをお送りください。関係のないアクセサリ類や他社製品は外してください。
- 輸送中の事故から大切な機材を守るために、送付の際は、梱包に十分な注意をお願いします。ハウジングには、ボディキャップ、ポートには、ポートキャップ、ポートキャップリアで保護されることをおすすめします。
- 外付けのビューファインダーや長いアームのような突起物は、輸送中に過大な力を受けると、ハウジング本体へのダメージ、変形などの原因となります。外してお手元で保管してください。
- 交換パーツの外観、価格、仕様等は予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

発送先及び、ご不明な点は anthis サービス部へ

---

〒444-2137 愛知県岡崎市藪田 1-16-1

TEL：0564-25-3937

受付時間：（月～金）午前 8 時～午後 5 時



# チェックしてください

準備はできましたか!大丈夫ですか!  
うっかりなんてことはありませんか?  
水中に入る前に点検を

## □カメラ

---

- 電池は入っていますか
- 電池の残容量は十分ですか
- メモリーカードは入っていますか
- 撮影可能コマ数は十分ですか
- 各操作部は正しく動きますか

## □防水

---

- OリングとOリング接触面に異物はありませんか
- Oリングのあたりはどうですか
- リアボディにフロントボディをのせ、無理なく閉まりましたか
- リアボディが浮き上がっていませんか
- 左右のラッチは同時に閉めましたか。また確実に閉まっていますか
- 前後のボディにずれはありませんか

## □作動

---

- 全ての操作部が確実に操作できますか

## □ポート

---

- ベースOリングは入っていますか
- Oリングがはみ出ていませんか
- ポートは確実に締まっていますか

## □ストロボ

---

- 正常に作動しますか
- シンクロコードは確実に締まっていますか
- 電池残量は十分ですか

**a n t h i s**

有限会社 アンティス

〒444-2137 愛知県岡崎市藪田 1-16-1

TEL：0564-25-3937

FAX：0564-25-2205

<http://www.anthis.co.jp>

\*改善により仕様および外観の一部を予告なしに変更することがあります。  
\*取扱説明書における本文および写真などの無断転載、複製を禁じます。